

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1112		
科目名	文章表現 2		
担当教員	先崎 彰容		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 4		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ D P コートー学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D〔市民的素養・市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値観を受容する姿勢〕地球的視点で事物を多面的捉え、異文化との交流の重要性を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP4-1〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C R コードー学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A1(10%)グローバル教養 D1(20%)市民的要素と参加 K1・K2(50%)ライティングコミュニケーション・オーラルコミュニケーション L1(20%)チームワーク		
教員の実務経験	特になし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目的とステージとの対応 1 萌芽期		
科目概要・キーワード	基礎的な文章の書き方やレポート作成方法を発展させ、さらに文章作成のスキルアップを図ることができるようになります。学士課程の基礎レベルを旨としたレポートを作成できる能力の向上を最終到達目標とする。授業形態は講義により行います。 ■（キーワード）インプット・アウトプット・現代社会の正確な理解 なお、授業形態は講義形式により、原則オンライン（オンデマンド型・ライブ配信型）にて行います。開講曜日・時限に授業動画配信および課題等を提示します。		
授業の趣旨	■副題 小論文作成の基礎をまなぶ ■授業の目的 文章の書き方のスキルである「インプット」と「アウトプット」の違いを理解できます。 ■授業のポイント 文章表現に関する基礎的知識を習得し、読解力を涵養するとともに表現力を身に着けることを目的とします。		
総合到達目標	・上記の「授業の目的」を達成するために、① 高度な文章を正確に読解することができるべきである、② インプットした内容を簡潔に図式化・メモ化できる、③ ②に基づき、高い評価を受けることができる文章を作成するだけの文章力を身につけることができるのだ。		

成績評価方法	■リアクションペーパー：30%(15回)適用ループリックA1(10%)、D1(20%)、K1K2(50%)、L1(20%) (評価の観点) 適用ループリックに基づき、教員が行います。 (フィードバックの方法) リアクションペーパーに基づき、教員が適切な方法により解答を行いません。 ■期末の連ポート:70% (1回)適用ループリックK1K2(100%) (評価の観点) 講義内で取り組んだ課題消化・表現能力を正確に理解しているかを教員が確認いたします。 (フィードバックの方法) 教員による講評等をつうじて、フィードバックを行いません。	
履修条件	「文章表現1」を履修していることが望ましいです	
履修上の注意点	特になし	
授業内容	回	内容
	1	① ガイダンス ② 授業内容の説明、スケジュール、評価基準について説明を行う。「文章表現1」を履修していることを前提に、本講義ではより高度かつ実践的な文章作成能力を身につけるべきである。多様な時事問題をとりあげ、的確に理解し、すぐれた文章表現を行えることを目指します。よって、時事問題について高度な知識を要求する場合など、運営方針を明示いたします。 ③ 予習(120分) 全国紙の中から一つ、関心をもった記事について切り抜きをつくり、持参するべきだ。 ④ 復習(120分) ガイダンスで指示した参考文献について、図書館等で手に取ってみるべきである。
	2	① 「文章表現1」の総復習 ② 「文章表現1」を履修していることを前提に、そうでない者にも対応するための復習的授業を行います。「高校生の感想文から大学のレポートへ」という基本の確認、さらに文章を書く際の最低限のスキルの再確認を行います。小論文の書き方について、最低限の復習を終えることができる。 ③ 予習(120分) ガイダンスの指示に従って、参考文献のうち一冊を読み進めておくべきである。 ④ 復習(120分) 講義中に渡したプリントに記載の注意事項について、自分なりにまとめ直してみるべきである。
	3	① 情報社会とは何か ② 「文章表現2」の特徴は、高度な現代社会にかかわる課題文を正確に理解し、表現することにあります。本格的な授業の第一回目である今回は、「情報社会」によって現代社会に現れた劇的な変化について考えます。そのうえで教員が授業で指示した形式に従って、課題小論文作成に取り組むことができるようになる。 ③ 予習(90分) ガイダンスの指示に従って、参考文献のうち一冊を読み進めておくべきだ。 ④ 復習(90分) 講義中に討論した自分の文章について、もう一度見直すべきである。
	4	① 情報社会とは何か ② 前回の授業で取りあげた課題「情報社会」について、どのような文章を書くことが求められているのか。その正解について、添削・討論・書き直し形式の授業を行います。なぜ答案Aは高い評価を受け、答案Bは低いのか。こうした議論を通じて、文章理解を深めるとともに、書き直しをお願いし「理想の文章」を体感してもらいます。現代社会の最も典型的な問題について、考察し、書くことができるようになる。 ③ 予習(120分) 前回の講義で取り扱った課題内容について、もう一度、読み直しておくべきである。 ④ 復習(120分) 講義中に行った添削について、もう一度見直し、プリントの文章と比較対照してみるべきだ。
	5	① 高齢化社会とは何か ② しばしば新聞・ニュース等で聞く「高齢化社会」とは、具体的にどのような点に問題を抱えているのか。表面的な思いつきではなく、実際にどのような課題が噴出して来ているのかを知るのだ。その上で、的確に文章表現できるよう、前回の授業の指摘をふまえて小論文形式の課題を課し、それに対応できるようになる。 ③ 予習(120分) 高齢化社会について、ネット等の情報でよいので事前に情報収集をおこなうべきだ。 ④ 復習(120分) 講義中の高齢問題についての内容を、適宜、まとめ直してみるべきである。
	6	① 高齢化社会とは何か ② 前回の授業で取りあげた課題「高齢化社会」について、どのような文章を書くこと

	が求められているのか。その正解について、添削・討論・書き直し形式の授業を行います。答案の善し悪しの基準について、再度確認しつつ、ここでもまた、再度の書き直し提出を求めると思います。 ③ 予習（120分）前回の復習でまとめたメモに目を通しておくべきだ。 ④ 復習（120分）講義中の文章にたいする添討論添削を見直し、自分の文章に対する癖を発見してみるべきである。
7	① 少子化と人口減少 ② 高齢化社会とともに、議論的になっている「少子化と人口減少」はどのような問題を孕んでいるのか。人口が減少すると、どのような問題が都市部・地域で生まれてくるのか。この点を理解したうえで、文章作成を求めます。この段階で、日本の喫緊の課題について、理論化できるようになる。 ③ 予習（120分）少子化問題について、ネット検索等でよいので、事前に情報を仕入れてみるべきだ。 ④ 復習（120分）講義中の少子化問題についての内容を、自分なりにメモにまとめ直してみるべきである。
8	① 少子化と人口減少 ② 前回の授業で取りあげた課題「少子化と人口減少」について、どのような文章を書くことが求められているのか。その正解について、添削・討論・書き直し形式の授業を行います。答案の善し悪しの基準について、再度確認しつつ、ここでもまた、再度の書き直し提出を求めます。 ③ 予習（120分）討論を行う予定なので、自分なりの意見を予めまとめておくべきだ。 ④ 復習（120分）講義中の頓論添削について、自分なりにもう一度、まとめ直してみるべきだ。
9	① 若者たちと教育問題 ② 少子化のなかで、一見、大事に育てられているように見える「若者」たちは、実はあるどのような課題を抱え、かつ社会構造とどう関連するのか。学生諸君にとっても身近な「若者問題」を、教育との関係から考える文章を読み、文章化していきます。自らに直結する課題について、高度な理論的枠組みで、文書化できるようになる。 ③ 予習（120分）若者問題について、自分の体験をもとに、メモをとってみるべきだ。 ④ 復習（120分）講義中の内容について、自分なりにまとめを作り直してみるべきである。
10	① 若者たちと教育問題 ② 前回の授業で取りあげた課題「若者たちと教育問題」について、どのような文章を書くことが求められているのか。その正解について、添削・討論・書き直し形式の授業を行います。答案の善し悪しの基準について、再度確認しつつ、ここでもまた、再度の書き直し提出を求めます。 ③ 予習（120分）討論を行う予定なので、自分なりの意見を箇条書きでメモするべきである。 ④ 復習（120分）講義中の討論添削について、自分の文章と他者の作品を比較対照してみるのだ。
11	① まちづくりと地方分権 ② 「まちづくり」とは何だろうか。国家や行政が主導し、いわゆる「箱もの」を作ることだけが、街を活性化するとは限らないです。自らも生活する環境すなわち「まち」をつくるとは何なのか。そこに地方行政はどう関わるのか。課題文を読み解きながら、考えることができるようになる。 ③ 予習（120分）まちづくりについて、自分の身近な自治体を例に、箇条書きで問題点を書いてみるのだ。 ④ 復習（120分）講義中のまちづくりの内容を、自分なりにまとめてみるべきである。
12	① まちづくりと地方分権 ② 前回の授業で取りあげた課題「まちづくりと地方分権」について、どのような文章を書くことが求められているのか。その正解について、添削・討論・書き直し形式の授業を行います。答案の善し悪しの基準について、再度確認しつつ、ここでもまた、再度の書き直し提出を求めます。この段階になると、自分の周辺の課題から離陸した公的問題についても、立論できるようになる。 ③ 予習（120分）討論をする予定なので、前回の講義を参考に、自分なりの意見をまとめるべきだ。 ④ 復習（120分）講義中の討論添削に基づいて、自分の文章についてその特徴を箇条書きにしてみるべきである。

	13	① リスク社会と危機管理 ② 「リスク」とは何か。「危機管理」とは何か——本学部の生命線と言ってよいこうした問題について、その初歩を学び、課題文に取り組みつつ、実際に自分の意見を積極的に表現するための初歩を学びます。他授業との関連性も深いこの問題について、年度最終盤のこの時期に、自分なりの考えをまとめることは重要な意味をもつでしょう。 ③ 予習（120分）リスクについて、ネット検索等でよいので、自分なりに考えをまとめておくべきだ。 ④ 復習（120分）講義中の内容について、自分なりに今一度、まとめ直してみるべきである。
	14	① リスク社会と危機管理 ② 前回の授業で取りあげた課題「リスク社会と危機管理」について、どのような文章を書くことが求められているのか。その正解について、添削・討論・書き直し形式の授業を行います。答案の善し悪しの基準について、再度確認しつつ、ここでもまた、再度の書き直し提出を求めます。この段階にくることで、危機管理学部の学生として、高度な理解力と文章能力を身に着けることができるようになる。 ③ 予習（120分）前回の講義中の討論添削に基づいて、自分なりの意見を、もう一度、文章として書き直してみるべきである。 ④ 復習（120分）今回の講義中の添削を参考に、もう一度、書き直してみるべきである。
	15	① 本講義のまとめ——成長社会から成熟社会へ ② 「文章表現2」の最終回となる今回は、現代社会全体の流れを「成長社会から成熟社会へ」という名称でまとめた上で、教員自らが適宜説明を施します。その説明をふまえた上で、整理整頓し、自らの意見を付すよう求めます。これによって、「文章表現2」で獲得した武器を再確認できるようになる。 ③ 予習（120分）前回までの討論と添削をもう一度見直し、今学期について自分なりのまとめを作成しておくべきだ。 ④ 復習（120分）講義内容を、もう一度、全プリントも参照しつつ、見直してみるである。
関連科目	科目コード：01010022 社会学2・科目コード01010024政治学2	
教科書	広井良典『人口減少社会のデザイン』（東洋経済、2019年）を使用する。その他については、授業内で配布するプリントを毎回持参する。	
参考書・参考URL	■先崎彰容『違和感の正体』（新潮新書）	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知する ■オフィスアワー 火曜日2時限 それ以外の時間について、メールにてアポイントをとれば研究室で対応する。	
研究比率		

